

## OKIデータ/NTTデータ

「INERPIA」で欧州地域の  
ITガバナンスとITコスト削減を実現

沖データ（以下、OKIデータ）は、欧州地域の基幹システムのデータセンターをNTTデータのポーランドデータセンターに移行し、本年7月より本格運用を開始した。本取組みによりサーバ保守運用コスト20%削減とITガバナンスの強化を実現した。

OKIデータは、本年3月に発表した経営基盤強化プログラムの中で、固定費削減による収益構造改善をあげており、ITシステムにおいてはコスト削減に向けた標準化と効率化を進めている。既に日本・アジア地域基幹システムを、NTTデータが提供しているマレーシアデータセンターに移設し、運用サービス業務も委託したことで、大幅なコストの削減を実現している。今回両社は、グローバルで統一的な運用サービス内容の標準を定め、欧州地域においても日本・アジア地域と同一品質のシステム運用を行うことで、サーバ保守運用コストの削減と、ITガバナンスの強化を実現することができた。

NTTデータグループは、日系企業からの「グローバルレベルでIT運用費を最適化したい」「グローバルITガバナンスを強化したい」などの要望に対し、グローバルリソースを有効活用した提案活動を行っている。今回、OKIデータが欧州地域基幹システムに導入したグローバルホスティングサービス「INERPIA/イナーピア」は、NTTデータグループのNTTデータグローバルソリューションズが提供している。

今後OKIデータは、他の地域においてもITインフラ基盤の整備・強化、情報システムの戦略的なコスト低減、ガバナンス強化を進めていく。NTTデータグループは、グローバルレベルでのIT運用に関して同様の課題を持った日系企業の問題解決に取り組んでいく予定だ。

OKI TEL : 03-3501-3835  
NTTデータ TEL : 03-5546-8051

## OKI

足利銀行と千葉興業銀行がクラウドサービス  
「EXaaS 為替OCRサービス」を採用

足利銀行（本店：栃木県宇都宮市）、千葉興業銀行（本店：千葉県千葉市）は、OKIが金融業界で初めて提供するクラウドサービス「EXaaS 為替OCRサービス」の採用を決定した。

OKIは「為替OCRシステム」のシェアを約4割（自社調べ）持つトップベンダーで、本システムは、営業店で受け付けた振込依頼書をイメージ化して事務センターに送付し、データエントリ処理の後、営業店からホストへの代行発信を行うことで為替の振込処理を効率化する事務集中システムだ。本システムが持つ機能を金融機関が初期投資を抑えて自社設備を保有せずに利用できるよう、OKIはクラウドサービス「EXaaS 為替OCRサービス」として2013年度下期から提供する予定だ。

足利銀行および千葉興業銀行では、これまでOKIの「為替OCRシステム」を導入し、振込処理の集中化・効率化を図ってきた。今回、振込処理のさらなる効率化とシステム開発・運用費の低減化のために「EXaaS 為替OCRサービス」の採用を決定した。OKIと両行は、約6ヵ月間にわたり仕様についての検討会を実施してきた。検討会で処理効率・運用面を詳細に比較、分析し、一層の効率化・運用性向上が図れる仕様を確定した。OKIはこの仕様をベースに「EXaaS 為替OCRサービス」の開発および金融機関に対して本サービスの営業活動を行っていく。

両行では「EXaaS 為替OCRサービス」の導入により、これまで以上に振込管理の業務・運用面での効率化を期待している。また、クラウドサービスを共同利用することで開発費用や運用・保守費用を抑制し、従来のシステムの導入・運営費と比較して、約3割の費用低減を見込んでいる。

OKI TEL : 03-3454-2111